

### 風 鈴



リーン、リーン。金属・ガラス・陶製でできているため、その打撃音がすずやかな音色を発し、それを楽しんでいます。

ヨーロッパで似たものとして、羊につけている カウベルの音色は高音でも牧歌的な音、トナカイの鈴はリンリン……、違いますね。

### うちわ



うちわには、腰のやわらかいものとかたいものがあります。腰のかたいものは、うなぎ屋さんがバタバタと炭火をおこすのに役立つようですし、涼をとるには、腰がやわらかいものの方が風量も多く、ゆったりとした感じがあります。

涼をとるため一人一人がうちわを使っている国は、他にもあるのでしょうか。

王様は、気持よさそうに、家来に大きなうちわであおがせています。

### ゆかた



ノリのきいたゆかたはサッパリとして、とても気持ちいいものですが、涼しそうなゆかたも着ると意外に暑い。

ノリがきいているため、通気性がカットされてしまうからです。

カッコは悪いが、ノリがしてないものが汗を吸い取ってくれますので助かります。

今は、タンパンにTシャツ…… 風情がありません。

### 花 火



遠くの方で聞こえる花火の音、見上げると大輪の花火、手元でチィ、チィとひらく花火、一瞬、暑さを忘れて見とれてしまいます。

今は、花火と音楽とレーザー光線で一大イベントが繰り広げられています。

### 行 水



夕方遊びから帰って、行水を浴びさっぱりとした子供の頃を思い出します。

汗で身体の毛穴をふさいでしまい、発汗作用ができないために、体内に熱がたまり、熱さを覚えます。

今は、シャワーで汗をサーッと洗い流せるのはまことに便利なことです。

(次ページへ続く)

### 水うちわ

その透明な美しさは、原料の手漉き紙の薄さと強さにかかっています。家田紙工株式会社HPより





## 滝・川

ドウドウと流れ落ちる滝の音。サラサラと流れる水の音。

イメージと相まって、庭にある滝や水の流れをみると、涼しさが増大してしまいます。

## かき氷



ジャッシュッと氷を削る手廻し機械からガラスの器に盛られた氷を口に入れたとたん、冷たさが口中にしみわたり、グッと我慢して咽を通すときの感覚が醍醐味です。

砂漠の人々は、かき氷やアイスクリームを体が受け付けません。うちわの風も涼しくはなく、風鈴の音もただの音にしか聞こえないという。

とすると、私達は、実にデリケートな感覚で、蒸し暑い夏の涼を楽しんでいることになりまます。こうした風物詩は、日本の夏の生活を涼しく暮らすための工夫でした。

日本は、自然の移り変わりがはっきりとしているため四季の風物詩が豊かにあります。その中でも、夏は高温多湿で、暮らすには快適とは言えませんが、この蒸し暑さを自然に受け入れて、光・風・水・火・緑の中に涼しさを見出し、夏の風物詩をつくってきました。こうした感覚は、涼しさの美とでもいうのでしょうか。更に精神的意味を導入して、桃山時代に創造した利久の茶の世界がその極致ではないかと、勝手に考えています。

話が飛躍してしまいました。

やっぱり、グーッと一気に呑むビール …… これも、涼しさ。

1991.7.28

■この記事を書いたのは、20年も前のことですが、今も日本の涼の取り方について大きくは変わっていません。

夏・冬には、エアコンをつけるのは当たり前のことになっていますが、一昨年原発事故以来電力を消費する家電などの使用を控え目に生活をするよう意識しなければならなくなっています。

事故前には、オール電化が理想的生活ともてはやされましたが、ここに来て一気に情勢が変化しました。この原発事故で目が覚めたことは、電気は無限ではないこと、有限の資源を使っていること、日本全体での発電能力とその容量に限界があることを計画停電などで思い知らされました。

国全体のこともありますが、個人でも節電をする生活に切り替えるスタンスが必要になってきました。その一つに、ソーラーパネルを設置する家づくりが多くなっています。

また、大きな費用をかけないで白熱電球をLEDランプに切り替えるのも良い方法です。

夏のエアコン使用には、室温を少し高めに設定すること。新品にしなくてもエアコンは使わず、上記のように昭和時代の生活スタイルで夏を乗り切りましょう。

しかしこの数年、猛暑の夏となっていますので熱中症には気をつけなければなりませんね。■

